

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎

1月の銅の概況及び2月の見通し (3)

予想レンジ

LMEセツル	9,500-10,500ドル	※
建値	109万円-125万円	↑
為替	110-115円	変わらず

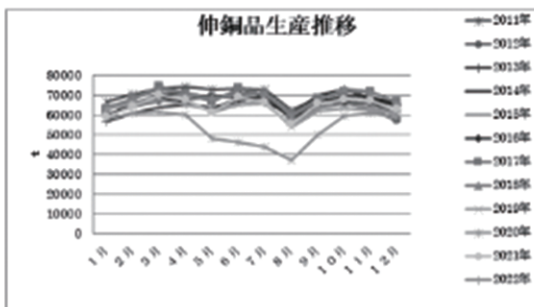
(1か月間TTM)

■前月の国内指標

【伸銅品生産】

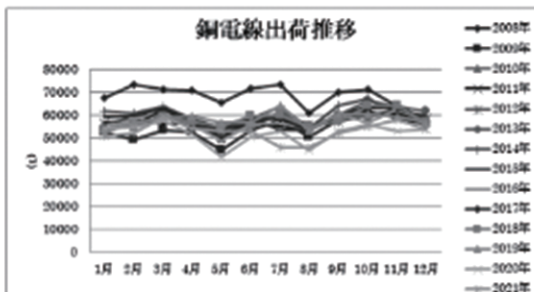
12月伸銅品生産量は6万2,640トン、前月比7.0%減少したが、前年同月比7.2%増加した。

また2019年の同月より4.7%増加したが、2018年より12.6%減少した。



日本電線工業会発の出荷速報 (推定)

前年比は-0.8%の5万3,800 t。



【見通し】

【自動車】

12月の自動車生産が-6.8%。1月国内販売台数が前年比-12.5%。3カ月連続生産、販売共に減少。半導体以外の中国からの部品供給の遅れからとの事。

ただ12月の生産台数の減少幅が大幅減少しており今後の回復に期待。

【伸銅品生産】

12月伸銅品生産量は6万2,640トン、前月比7.0%減

少したが、前年同月比7.2%増加した。また2019年の同月より4.7%増加したが、2018年より12.6%減少した。

前月と同様に自動車と半導体向けの生産が好調だった。住宅関連の設備機器向けの需要も好調との事。

部品調達遅れからの生産減に歯止めがかかるは注目。

【電線】

前年比-0.8%の5万3,800 t。うち、国内-0.7%輸出が-2.5%。国内輸出共に減少。今後さらに減少するか注視。

・銅輸出は電気銅、スクラップ共に内需旺盛に伴い減少。

・銅輸入は電気銅は割高感から減少、スクラップは内需旺盛から増加。

【スクラップ景況予想】

流通(一次問屋)在庫は銅建値が118万から120万と結果的に高値安定であった。

ただコロナによる生産減からのスクラップ発生減により出物が無く在庫薄。

需要面に関していまの所、前月に続き中国の部品調達の遅れからの自動車生産、販売の大幅減少傾向があるが伸銅品に関しては挽回生産に向けた在庫積み上げから需要は旺盛。

仮に急落してもその価格での販売に躊躇する問屋も多く定期で入らないメーカーが高値買いの傾向が今月も続く。

【LME・為替予想】

今月は、①ロシア、ウクライナ情勢、②米中の金融政策の動向に関しては一触即発とも思われる報道も一部ではあるが正面切った戦争でロシアが勝つ可能性はなく、さりとて引き下がるわけにもいかず、当面はお互いの引かない演出が続くのでは。

①に関しては、中国に関しては北京オリンピック終了後、経済再生のための生産再開金融緩和が行われるのでは。

米国に関しては、FOMCで3月に金融引き締めを行うことを示唆していること。

インフレが米市民の生活に影響が出はじめていることから引き締めは行われるのでは。

これらを踏まえた2月の銅価格は9,500-10,500ドル(セツル)との予想。

ドル円は110円-115円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては109万-125万円程度と予測している。

(「1月の銅の概況及び2月の見通し」おわり)

鋼・非鉄金属地金全般

株式会社 オカモト

代表取締役 岡本宜三

大阪府堺市美原区黒山 696

TEL 072-361-2264 fax 072-361-2265